令和6年度　学校評価報告書

伊予市立由並小学校　　令和6年　2月

【評定基準】　A：目標を達成　　B：8割以上達成　　C：8割未満の達成
【評価基準】　◎：8割以上が肯定　〇：6割以上が肯定　△：6割未満が肯定
【アンケート】　4：大変よい　3：よい　2：あまりよくない　1：よくない

※　複数のアンケート資料がある場合には、それらの評価のうち一番低い評価をもって評定をしている。
　アンケート以外の資料がある場合については、その実現状況を加えて評定している。

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%） 4	3	2	1
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	一人一人が分かるできる喜びを味わい、やる気がわく授業づくりを進めているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	昨年度と比較し、保護者の否定的な評価が増えている。参観日などを活用し、学習の様子を見ていただいたり、多様な教材（デジタルコンテンツを含む）を効果的に活用したり、個々の学びが深まるように調べ学習や課題への取組を充実させたりするなど、一人一人が分かるできる喜びを味わうことができる授業づくりに努めたい。また、やる気がわく授業となるよう、児童同士が自分の考えを伝え合い、互いの学びを共有するなど、学び合いの力を育成していきたい。	児童アンケート	◎	38	54	8	0
					教職員アンケート	◎	57	43	0	0
					保護者アンケート	〇	17	47	36	0
		学年の発達段階に応じた学力が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4） 学力調査で国や県の平均値以上	B	前期と比較し、各教科の単元別テストの知識・技能の平均正答率が大幅に上がった。しかし、学期末の振り返りテストの結果をみると十分とは言い難い。その学年に必要な基礎的・基本的な技能が身に付いていないために、授業の理解が困難になっている児童もいる。児童の学習の定着度を把握しながら、復習の機会を定期的、継続的に確保し、知識・理解の定着に努めたい。また、全学年共通で、学年の目標学習時間に見合う量や質の宿題を出し、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図りたい。	児童アンケート	◎	27	60	8	5
					教職員アンケート	〇	14	58	14	14
					保護者アンケート	〇	11	55	31	3
					学力調査	児童数が少数のため、平均値は非公開				
		互いの思いを伝え合う豊かな表現力が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	複式学級での学習の仕方の定着を見据え、全教科の学習活動を通して、ペアや小集団、全体で自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする活動の充実に取り組んでいる。全校集会等の場で、自分の考えや感想を発表することのできる児童も増えてきた。また、思考力を伴った書く力を育てるために、授業の中で、条件に沿って自分の考えをまとめて書く活動や、具体的に振り返って書く活動を意図的に取り入れている。引き続き、伝え合い学び合う場を大切にしていきたい。	児童アンケート	◎	51	35	11	3
					教職員アンケート	◎	0	83	17	0
					保護者アンケート	△	22	33	37	8
		進んで読書活動を実施し、読書習慣が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	今年度は、週に1回以上の学級での図書室利用に加えて、昼休みの図書室利用についても呼び掛けるとともに、週2回の確実な朝読書の実施にも取り組んだ。高学年では、一人一台端末（EILS機能）のみきゃん通帳への感想記入も行えた。しかし、個人差が大きく、読書習慣が身に付いているとは言えない。引き続き、朝読書等の時間確保や外部図書館の貸し出し図書の利用を行ったり、多読の児童を賞賛したり、図書委員会を中心に読書活動を啓発したりする活動に努めたい。	児童アンケート	◎	54	27	14	5
					教職員アンケート	◎	33	67	0	0
					保護者アンケート	△	14	19	48	19
		家庭学習の習慣が身に付いているか 【　（学年×10分＋10分）以上　】 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	（学年×10分＋10分）程度の家庭学習に取り組めるよう、質や内容を工夫した課題、復習的な内容の課題、一人一台端末を活用した課題など、宿題の出し方の工夫を行っているが、十分ではない。児童の実態把握に基づき、個に応じた配慮を図りながら、家庭と連携して家庭学習習慣の定着に努めたい。	児童アンケート	◎	51	30	11	8
					教職員アンケート	〇	29	42	29	0
					保護者アンケート	△	11	33	45	11
		タブレットなどを活用して、情報を収集したり、適切に選んだりすることができていますか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	目的に応じてタブレットを活用し、インターネット検索を中心に情報収集や資料にまとめる活動、プレゼンテーションなど多様な活動を取り入れている。情報収集能力は個人差があるが、経験を重ねることで情報の取捨選択の技能も徐々に身に付いている。教員の指示ばかりでなく児童が主体的に情報収集する機会を積極的に設け、効果的に活用する経験を積み重ねさせたい。	児童アンケート	◎	67	17	13	4
					教職員アンケート	◎	43	43	14	0
					保護者アンケート	△	26	20	37	17
		インターネット上の情報をうのみにせず、適切な情報か判断できていますか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	児童の中には、インターネット上の情報は全て正しいと信じてしまったり、SNS上の噂を信じて広めてしまったりする児童がいる。また児童が家庭で行っているオンラインゲーム上で、ネットを通じて見知らぬ他者との交流が当たり前にできてしまう。体験型など様々な情報モラルコンテンツなどを積極的に活用していくことで、児童の意識を高めるとともに、情報社会を生き抜く力を身に付けさせたい。	児童アンケート	◎	74	13	13	0
					教職員アンケート	◎	14	86	0	0
					保護者アンケート	△	8	45	36	11
	評価委員の所見	・学年の発達段階に応じた学力に対する保護者の評価が低いことが気になる。その要因をどのように考えているか。 ・読書習慣に関する評価が低いが、児童の生活が以前と比較すると忙しくなっていることが原因の一つと考えられる。タブレットを活用して読書することも検討してはどうか。 ・明らかにあやしいと思われる内容でも、我が子がネットの情報を信じていると感じることがある。さらに真偽の判断が難しい内容であれば、何を信じてよいか迷うことが起きることが予想される。		学校の対応	・基礎的・基本的な内容の定着を図るために、一人一台端末を効果的に活用し、個別最適な学びの実現に努めてきた。書く活動を意図的に取り入れたり、振り返りプリントに取り組ませたりしながら、学習習慣や学年の発達段階に応じた学力の定着に家庭と連携して取り組んでいきたい。 ・読み語り隊の協力で児童が本に親しむ環境は整っていると感じている。読書への関心を高めるために、学級ごとに図書室に足を運び本を手にする習慣づくりや、「みきゃん通帳」への読書記録などにも取り組んできた。また、委員会の取組として、お薦めの本を紹介したり、読み聞かせ会を開催したりしてきた。 ・ネットの適切な利用について、機会を捉え粘り強く児童に働きかけ、児童の情報モラルの向上に努めていきたい。					

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%） 4	3	2	1
教育課程・学習指導	心の教育の充実	児童の心に響く道徳教育を実施しているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	A	行事や校外学習等を通して、互いのよさを認め合ったり協力して取り組んだり，自己の目標に向かって努力したりする姿が見られた。また、地域の方に接し学ぶことで学びをより確かなものにしたり、自己の生き方について考える機会を得たりすることができた。各教育活動での道徳教育が児童の心に響くよう、児童の実態を踏まえ、意図的・計画的な実践に努めたい。また、定期的に道徳ノートを家庭に持ち帰り、学習の様子を知らせていきたい。	児童アンケート	◎	65	32	3	0
					教職員アンケート	◎	50	50	0	0
					保護者アンケート	◎	25	64	11	0
		明るい挨拶ができる児童が育っているか 目標値：教職員、児童、保護者、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	A	児童の評価と教職員・保護者の評価とに隔たりがあり、児童は挨拶をしていると思っているものの、まだ自分から気持ちのよい声で挨拶ができていると言えるまでには至っていない。図書・ボランティア委員会の挨拶運動により、ＪＲＣ週間の挨拶は元気よくできるようになっているので、いつも、相手に聞こえる、明るい声で挨拶ができるようこれからも発達段階に応じて指導していきたい。	児童アンケート	◎	68	24	8	0
					教職員アンケート	◎	44	56	0	0
					保護者アンケート	◎	39	44	17	0
					地域住民アンケート	◎	67	33	0	0
		縦割り班活動を生かした温かな集団づくりに努めているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	A	２学期は、運動会や縦割りウォークラリー遠足などの縦割り活動が多く、活動を通して、上学年が下学年を思いやる姿や下学年が上学年をお手本にして頑張る姿が見られた。縦割りウォークラリー遠足では、自然にいろいろな学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が見られた。縦割り班遊びも計画的に行うことができ、毎日の清掃活動などでも温かい交流が図られている。	児童アンケート	◎	86	11	3	0
					教職員アンケート	◎	67	33	0	0
					保護者アンケート	◎	58	39	3	0
	健やかな心身の育成	「早ね・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	A	生活チェック週間の記録カードを通して、「早寝・早起き・朝ご飯」など、規則正しい生活の習慣化を図っている。記録カードの得点が低い児童を中心に個別の健康相談を実施し、個別対応に努めている。また、毎月のほけんだよりで各学年の結果や課題点などを家庭に伝えている。その結果、規則正しい生活を意識できる児童が増えてきたが、改善や意識の変容が見られない児童も少数いる。生活面で課題が多い児童は、生活チェックカードを保護者に見せたり、コメントをもらったりする意識も乏しく、学校だけの指導では限界を感じるため、懇談等で保護者に協力を依頼するなどしたい。今後も、本人への働きかけと家庭に情報発信しながら連携に努め、よい生活習慣が身に付くよう努めたい。	児童アンケート	◎	70	30	0	0
					教職員アンケート	◎	29	71	0	0
					保護者アンケート	◎	44	44	9	3
		運動や外遊びなど、進んで体を動かすことができているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	学校では、休み時間に体を動かす児童が多く、異学年の友達とも関わりながら楽しんでいる。鬼遊び、ボール遊び、遊具を使った遊び、生き物探しなど、それぞれが経験して関心が高まった遊びを続けている。遊びの内容は、友達からの提案や体育的行事、授業での経験が大きく関わっている。運動の習慣が身に付いていない児童は、体育科の授業や行事以外では体を動かす機会を持てずにいる。今後も家庭への啓発や縦割り班遊びの充実を図り、運動の習慣化に努めていく。	児童アンケート	◎	79	16	5	0
					教職員アンケート	◎	75	25	0	0
					保護者アンケート	○	36	33	31	0
		学年の発達段階に応じた体力が身に付いているか 目標値：教職員、児童の80%以上が肯定（3・4） 新体力テストでC級以上の児童が80%以上	B	新体力テストの結果から、「すばやさ」「動きを持続する能力」「タイミングの良さ」「力強さ」の運動特性において、やや高い評価であることが分かる。一方で、「体の柔らかさ」が全国平均より下回っており、継続して課題となっている。また、運動習慣の二極化は依然として見られる。本年度の課題に応じて体力アップ推進計画を作成し、体育科の授業や家庭での運動経験の充実を啓発する。全員に運動のやりがいや達成感を味わわせるように努める。年度末には「体の柔らかさ」の再測定を行うことで意欲付けを図るとともに、取組の効果を検証しながら改善や継続実践につなげていく。	児童アンケート	◎	76	19	5	0
					教職員アンケート	◎	62	38	0	0
					保護者アンケート	○	36	42	22	0
					新体力テスト	○	A18.9%,B24.3%,C32.5% D21.6,E2.7% ※C級以上75.6%			
		自他の命を大切にしようとする態度が育っているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	A	道徳教育や安全教育、縦割り班活動等の充実を図り、豊かな関わりの中で、「命はひとつ」の教育の推進に努めた。くすのきタイムでは、自己肯定感を育む意図を持って活動を企画・運営し、自己を見つめたり友達と交流したりする機会を設けた。本項目には、児童・教職員・保護者がそれぞれ肯定的な回答を寄せている。自他の命を大切にしようとする態度を育てていくために、今後も継続実践していきたい。	児童アンケート	◎	86	14	0	0
					教職員アンケート	◎	62	38	0	0
					保護者アンケート	◎	55	42	3	0
	評価委員の所見	・キャッチボールやサッカーなどができる広い場所が近くでなくなっているが、土日など休日に運動場を利用してもよいのか。使用した後は、トンボ掛けなどの整地は必要か。		学校の対応	・安全面には十分に気を付けることを前提に、学校の運動場を休日に使うことは問題ない。これまでも中学生がスパイクを使って運動場を使用した後は、トンボ掛けの整地を約束していた。小学生が通常の靴で運動場を使用した際は、特に整地は必要ではないと考えている。 ・体育の授業で様々な動きを取り入れたり、柔軟性の向上に努めたりしてきた。休み時間に外遊びに夢中になる児童も多い。今後も体力アップ推進計画に沿って、体育科の授業や家庭での運動経験の充実を図っていきたい。					

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%）			
							4	3	2	1
生徒指導、人権・同和教育	よりよい人間関係づくり	互いのよさを認め合い、支え合う仲間づくりができているか 目標値：教職員、児童、保護者の80％以上が肯定（3・4）	A	学校生活のすべての活動の中で、よりよい人間関係づくりに取り組んでいる。毎月のキララさんカードで友達のよさを見付けたり、縦割り班で活動したりすることで学校全体で豊かな人間関係を築いている。また、道徳科や総合的な学習の時間には、友達や周りの人々の気持ちを考えたり、自分を振り返ったりしながら人権意識を高めている。学級の枠にとらわれず学校全体で児童の支援に当たり、一人一人を大切にしながらよさを認め合い、支え合う仲間づくりに努めたい。	児童アンケート	◎	68	27	5	0
					教職員アンケート	◎	44	56	0	0
					保護者アンケート	◎	31	58	11	0
	生徒指導の徹底	児童理解に努め、児童の悩みに積極的に対応し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応に努めているか 目標値：教職員、児童、保護者の80％以上が肯定（3・4）	A	月に一回の生活アンケートや教育相談を活用し、児童の悩みや不安の早期発見に努めている。また、職員間の会話などで欠席児童の状況が共有されることで、欠席日数の多い児童には複数の教員が気にかけることができている。しかし、人間関係に不安をかかえる児童や、時期によって学校に来るのがおっくうになっている児童も見受けられるため、より安心できる場づくりを追求していきたい。	児童アンケート	◎	81	19	0	0
					教職員アンケート	◎	75	25	0	0
					保護者アンケート	◎	13	77	10	0
		全教職員で、情報を共有し、共通理解のもと、児童の指導に当たっているか 目標値：教職員の80％以上が肯定（3・4）	A	月に一度の職員会で、全ての学級に学級の様子や気になる児童の様子を話してもらい、共通理解を図っている。また、養護教諭や管理職からも意見、指導をいただくことで、学級担任からは見えづらい学級や学校の様子についても共通理解を図ることができている。1・2学期は児童間の深刻なトラブルは少なかったが、どんな問題にも全教員が共通認識のもと対応していく。	教職員アンケート	◎	67	33	0	0
		学年の発達段階に応じた規範意識が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者、地域住民の80％以上が肯定（3・4）	A	日常の指導や地区別児童会を通して、きまりや交通安全について指導している。規範意識については個人差が大きく、児童と教職員の意識の差が大きい。児童自身が「これくらいならよい」と思っていることも社会の中では許されないこともあり、事例に合わせて学校でも毅然とした指導を心がけることで、児童の意識も変えていきたい。	児童アンケート	◎	76	24	0	0
					教職員アンケート	◎	11	78	11	0
					保護者アンケート	◎	33	67	0	0
					地域住民アンケート	◎	56	44	0	0
	評価委員の所見	・「かがやきキララさん」の活動は、よい取組であると思うので、今後も継続してほしい。		学校の対応	・「かがやきキララさん」の取組だけでなく、学校生活の全活動を通してよりよい人間関係づくりに取り組んできた。少人数のよさを生かし、「全教職員が全児童の担任として関わる」ことを心掛け、きめ細かな児童理解に努めてきた。 ・児童間ではトラブルが起こりうることを前提に、トラブルに対して児童が自分たちで折り合いをつけ、対処できるための支援を大切にした。そのために全教職員が情報交換を密にし、共通理解の下で指導に当たることを継続する。					

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%） 4	3	2	1
安全管理	安全・安心な学校づくりの推進	避難訓練などを適切に実施して、児童や教師に安全対応能力が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80％が肯定（3・4） 避難訓練毎学期実施	A	1学期に4回の避難訓練（火災/土砂災害/引き渡し/地震・津波）、2学期に2回の避難訓練（休み時間・通報訓練/シェイクアウトえひめ）を実施し、3学期には不審者対応の避難訓練を予定している。「自分の命は自分で守る」ことの意識化を図るとともに、避難の手順や経路を確認することができ、児童の防災意識の向上に結びついていると考える。引き渡し訓練を早い時期に実施できたこと、避難の際の移動経路や集合場所のスペースのことなどの課題が明らかになったことが安全確保のために効果的であった。	児童アンケート 教職員アンケート 保護者アンケート 避難訓練	◎ ◎ ◎ 毎学期実施	86 67 53	14 33 47	0 0 0	0 0 0
		家庭や地域との連携を密にした地域ぐるみの見守り活動ができているか 目標値：教職員、保護者、地域住民の80％が肯定（3・4）	A	毎月の交通安全の日や交通安全運動期間中などには、交番や地域の方、保護者が定期的に見守り活動を行ってくださっており、児童の安全確保につながっている。また、スクールガードリーダーの方にも児童の様子を見守っていただいている。双海地域事務所駐車場の植栽伐採を行っていただき、伐採前より見通しが大きく改善された。また、側溝への転落防止のために一部側溝と反対側を通行しているが、児童に定着してきている。	教職員アンケート 保護者アンケート 地域住民アンケート	◎ ◎ ◎	67 43 44	33 50 56	0 7 0	0 0 0
	評価委員の所見	・保護者から登下校時に地域の方の見守りがあると有難いとの意見があったが、実現することは可能だろうか。他校では、毎日のように危険個所で見守りをして下さる方がいる。 ・学校運営協議会で「まもるくんの家」の確認作業を今年度行ったが、児童が挨拶に訪問したり、学校と「まもるくんの家」の方と情報交換を行ったりするなどを検討してはどうか。		学校の対応	・学校だよりで、学校ボランティアを呼び掛け、児童の登下校時の見守りなどを行う学校安全ボランティアを募集している。家の前で見守る、会ったときに言葉掛けをするなど負担になりすぎないように配慮し、多くの方の協力を得たい。 ・学校周辺の「まもるくんの家」に限られるかもしれないが、来年度児童がお礼の気持ちを込めて訪問することを検討していきたい。集団下校時に教職員も共に訪問することを予定している。 ・「命はひとつ」の教育を、避難訓練に限らず機会を捉えて児童に働きかけ、「自分の命は自分で守る」という意識を高めていきたい。					
情報提供・保護者、地域住民等との関係	開かれた特色ある学校づくりの推進	地域の自然や文化、人々との関わりを大切にした学習ができているか 目標値：教職員、児童、保護者、地域住民の80％以上が肯定（3・4）	A	生活科や総合的な学習、社会科などで、地域の施設に出向き見学したり自然や人々と触れ合ったりしている。また、1学期には、地域の方をお招きして「お年寄りと仲よくなろう会」も実施した。2学期には、上灘公民館まつりでは合唱や子ども読み語り隊、獅子舞などの発表に取り組んだ。実際に地域の施設や自然、人々と関わることからの学びは大きい。今後も、地域の自然や文化、人々との関わりを大切にした学習を行っていきたい。	児童アンケート 教職員アンケート 保護者アンケート 地域住民アンケート	◎ ◎ ◎ ◎	71 56 47 67	24 44 53 33	5 0 0 0	0 0 0 0
		学校の教育活動に関する情報提供を積極的に行い、保護者や地域住民の理解を得ているか 目標値：教職員、保護者、地域住民の80％以上が肯定（3・4） 学校・学年便り月1回発行、HP随時発信	A	ホームページの更新を適切に行うことにより、日々の学校での児童の活動を発信することができた。また、学校便りを地域に回覧し、学校の様子を知っていただくための情報提供を行うことができた。2学期末には、学校運営協議会で推進した「まもるくんの家」を一覧表にまとめた地図を各家庭に配布した。学校運営協議会を中心に、さらに家庭や地域の方との情報共有、連携・協働を図りながら、保護者や地域の方の理解と協力を得られるように努めたい。	教職員アンケート 保護者アンケート 地域住民アンケート 学校・学年便り	◎ ◎ ◎ 月1回発行、HP随時	56 40 78	33 57 22	11 3 0	0 0 0
		公民館や老人会など、地域の関係団体との連携に努めているか 目標値：教職員、保護者、地域住民の80％以上が肯定（3・4）	A	双海町こども教室や双海地区校区別研修会などの公民館主催の事業への参加を通して、児童と教職員が様々な学びの機会を得ることができた。学校としても、事業の趣旨に賛同し、可能な範囲での協力に努めている。また、上灘駅近くの畑にひまわりの種を蒔いたり、「伊予市トライアスロン大会inふたみ」の選手へのメッセージカードや七夕飾りを作成したりした。参加している児童に対しては、こうした取組が多くの方の協力に支えられて行われていることを伝え、感謝の思いを深められるような適切な言葉掛けを行いたい。	教職員アンケート 保護者アンケート 地域住民アンケート	◎ ◎ ◎	62 33 56	25 60 44	13 7 0	0 0 0
	評価委員の所見	・「お年寄りと仲よくなろう会」では、どのような活動をしているのか。 ・双海町や公民館事業に積極的に参加し、「ふるさとを思う心」を引き継いでほしい。 ・伝統的な遊びの一つとして凧揚げがあるが、最近は凧揚げができる場所が減っている。図画工作科の授業で自分で凧を作り、作品展示をしたり、その凧を学校で揚げたりすることはできないか。		学校の対応	・「お年寄りと仲よくなろう会」の充実を図るために、公民館との連携をさらに深めていきたい。 ・双海町や公民館事業に児童がどのくらい参加しているのか、どのような気持ちを持っているのかアンケートなどを行うことを検討する。自分たちの学校や地域に誇りや愛着が持てるように、地域の自然や文化、人々との関わりに関する学習の充実を図る。 ・自分たちの安全や成長のために、多くの方が関わってくださることへの感謝の思いを深められるように適切な言葉掛けを行っていく。					

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%）			
							4	3	2	1
組織運営	校内組織運営の充実・事務管理	学校の教育目標の具現化に向けた学級のグランドデザインの立案・実践・評価・改善ができているか 目標値：教職員の80%が肯定（3・4）	A	教育目標の実現に向けて、教職員一人一人がそれぞれの立場で具体的な目標を設定し、定期的に振り返ったり週案を通して管理職から指導助言を受けたりしている。また、学期ごとに学校評価の結果を共有し、改善策を検討してよりよい実践に努めている。学校行事の立案の際にも目的を明記し、共通理解を図っている。今後も、校長のリーダーシップのもと、教職員・家庭・地域が連携や協力をしながら取り組んでいく。	教職員アンケート	◎	50	50	0	0
		報告・連絡・相談・確認を密にして、組織として問題に対応しているか 目標値：教職員の80%が肯定（3・4）	A	学校運営や生徒指導上の問題等に対して、管理職への速やかな報告を第一に行い、その指導に基づいて教職員の共通理解を図った上で早期対応に努めている。定期的な機会としては、職員会での情報共有の時間が機能している。今後も一層「報告・連絡・相談・確認」の体制の徹底を推進し、全教職員が参画する温もりある組織運営を目指していく。	教職員アンケート	◎	87	13	0	0
		校務分掌の適切な実施と情報管理ができているか 目標値：教職員の80%が肯定（3・4）	A	教職員の資質・能力・経験などを考慮して、適切な校務の分担を行っている。しかし、教職員数の減少や複式学級の増加に伴い、一人一人の負担が大きいままである。業務改善への不断の努力が不可欠で、教職員間での連携や協力を密にして支え合っていく。情報管理については、定期的な研修を受けており、管理職の指導のもと、個人情報の流出や紛失には十分に注意するようにしている。児童名簿やUSBのデータ管理等、セキュリティ管理の厳正化に努めていく。	教職員アンケート	◎	62	38	0	0
		教職員の業務改善に向けて、意識改革が進められ、具体的な取組がなされているか 目標値：教職員の80%が肯定（3・4）	B	心身の健康管理と働きがいのある職場環境づくりを目指している。勤務時間を意識した働き方改革のために、ICTを活用した事務の効率化、業務の再編や行事の精選など、改善や工夫に努めてきた。しかし、十分ではないと感じている教職員もいる。地域・保護者の理解と協力を得ながら、教職員や児童の実態に応じた内容を検討するなど、今後も持続可能な実施を考慮して意識的に取り組んでいく。	教職員アンケート	○	13	62	25	0
	評価委員の所見	・業務改善は、学校だけでなくあらゆる組織で求められていると思う。学校でICTを活用して業務改善につながっていることはあるか。 ・実際の教職員の勤務時間は何時から何時なのか。		学校の対応	・普段の授業で一人一台端末を活用することが業務改善につながっている。また、教職員間の調査でアプリのアンケート機能を使うこともICTの活用の一つである。 ・法的な勤務時間は8時から16時30分である。来年度から伊予市全体で勤務時間外の電話には自動応答のメッセージが流れるようになり、伝言メッセージの録音機能はないことを、保護者に丁寧に説明する。 ・業務改善には量と質の両面がある。教職員がゆとりをもって児童に向き合える時間を確保するために、業務改善及び勤務時間を意識した働き方改革に全教職員が協力して取り組んでいく。					

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%）			
							4	3	2	1
研修	教職員の資質・能力の向上	一人一人が学び合う校内研修ができているか 目標値：教職員の80%以上が肯定（3・4）	B	「伝え合い、学び合う」活動を中心とした授業の工夫や豊かな関わりを大切にした体験活動の充実に向け、2部会を中心に研修を行っている。授業研究部では、複式学級の授業公開にあたり、複式学級での学習の進め方や、児童が学び合う場の工夫について検討を行った。環境研究部では、伝え合い、学び合う場の充実に向け、仲間づくりを大切にした縦割り遊びやくすのきタイム、互いのよさを伝え合うキララさんカードの計画実践を行った。また、人権・同和教育参観日の実践をまとめ、職員で共有し研修に生かしたい。	教職員アンケート	○	50	25	25	0
		反省・評価を生かし、授業改善に努めているか 目標値：教職員の80%以上が肯定（3・4）	A	「分かる・できる・やる気がわく」授業を目指し、日々の授業実践に取り組んでいる。授業公開の際は授業評価シート等を活用し、相互評価・自己評価を行い授業改善に努めるようにしている。教師だけでなく、児童による授業評価アンケートの在り方についても研究し、目標と指導と評価の一体化を目指したい。	教職員アンケート	◎	66	17	17	0
		校外研修などに意欲的に参加しているか 目標値：教職員の80%以上が肯定（3・4） 一人一回以上研修の受講	A	それぞれの校務に応じた研修会に参加し、研修を深めることができた。他校で実施される研究授業等の案内もいただいているが、参加にともなう他の教員や児童への負担を考えるとなかなか校外での研修に参加することができないのが実情である。それぞれがゆとりを持って研修できるよう考えていかなければならない。	教職員アンケート	◎	62	25	13	0
	評価委員の所見			学校の対応	・今後の児童数減少に伴い、複式学級が増えることを想定して、「伝え合い、学び合う」活動を取り入れた授業について研修を進めてきた。引き続き、学習課程や指導方法の工夫や一人一台端末を活用した授業実践、温かな集団づくりにつながる話合い活動の充実に努めたい。 ・「家庭・地域とつながる笑顔あふれる由並小学校」の実現に向けて、近隣校とのオンライン交流や小中連携、学校運営協議会との協働など、本校の強みを生かした教育実践に努める。 ・児童によりよい学びを提供できるように、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を図り、ICTや地域の教育資源を活用できる教職員の資質・能力の向上に努めていく。						